



NPO法人 西東京臨床糖尿病研究会

MANO a MANO

“mano a mano” とはスペイン語で“手から手へ” という意味です



「糖尿病と在宅と薬剤師」



当会評議員

くにたちウラン薬局 森 貴幸 [管理薬剤師]

今の日本は糖尿病患者がどんどん増えている現状です。最近では様々な薬が発売され治療方法が大きく変わってきました。それでも糖尿病患者さんを減らすことはできていません。そして日本の経済を支えてきた団塊の世代がだんだんと高齢者になっていきます。その方々がやがて在宅患者さんとなっていくことへの危機感が強く叫ばれています。そういった状況の中で、今後、糖尿病を抱えた在宅患者さんがどんどん増えていくことも予想されます。

今現在、ますます増える糖尿病患者を地域で支えることは西東京地域では当たり前のようにできていると思います。しかし在宅に目を向けてみると糖尿病専門医による在宅診療の実際はまだこれからの課題であると思います。薬局薬剤師にとっても在宅訪問は薬局業務として確立されるべき仕事となりつつあります。しかし、まだ訪問したことのない薬局薬剤師は多いと思います。薬剤師の仕事として在宅訪問は誇りを持って取り組むことができる仕事のひとつだと思います。

くにたちウラン薬局では4年前のオープン以来、近隣クリニックより癌末期ターミナルケア患者さんや薬剤師による服薬指導の必要な患者様のお宅に訪問しています。そこで「痛みを訴えていないか?」「副作用で苦しんでいないか?」など確認しています。薬剤師を必要としているのは医療機関だけではなく、ケアマネージャーやヘルパー、訪問看護の方々と連携して患者さまのために活動しています。残薬整理や一包化をするだけでなく、お薬カレンダーなどを用いてアドヒアランスの向上につながるよう手助けをしています。

私は今、クリニックみらい国立の在宅訪問に同行し薬剤の調整や指導などを行っています。糖尿病患者さん、特にインスリン注射などを行っている患者さんのところへ行っています。そこで残薬調整や薬の選択の際に先生と意見交換などを行っています。薬剤師がいることで診療のサポートができればと考えています。

安心して最期を迎えられる場所の一つとして自宅があげられるように法制度だけではなく医療人としての資質を兼ね備えられるように日々精進していきたいと思います。在宅患者さんは一人では支えられません。色々な人、各職種、家族の支えで在宅医療が進められるように支援を考え前向きに仕事をしていきたいと思います。また、在宅患者にならずに健康寿命を延長できるサポートも必要かと思います。薬剤師が医療従事者だけではなく、患者さんからも必要とされるように励んでいきたいです。



読んで
単位を
獲得しよう

西東京糖尿病療養指導士(LCDE)は、更新のために5年間に於いて50単位を取得する必要があります。当会会員は、会報「MANO a MANO」の本問題及び解答を読解された事を自己研修と見做し、**1年につき2単位**(5年間で10単位)を獲得できます。毎月、自分の知識を見直し、日々の療養指導にお役立てください。

(「問題」は、過去のLCDE認定試験に出題されたものより選出しております。)

問題 糖尿病白内障について、誤っているのはどれか、2つ選べ。(答えは2ページにあります。)

1. 高血糖により硝子体の変性が起こる。
2. 老人性白内障が早期に発症する場合がある。
3. 予防には血糖コントロールが重要である。
4. 眼科的治療として光凝固療法が最優先である。
5. 早期に視力が低下し、霧視などが出現する。



研究会等の実施報告

西東京CSII普及啓発プロジェクト 第5回研修会

平成27年4月9日(木)
国分寺労政会館

【報告】当会会員 西東京CSII普及啓発プロジェクト副委員長 立川相互病院 宮城 調司 [医師]

2015年4月9日、国分寺労政会館にて『西東京CSII普及啓発プロジェクト第5回研修会』が行われました。内容としては、「西東京の施設向けに行ったCSIIに関するアンケート結果」「実際の導入経験の発表」「Sensor Augmented Pumpシステムについて」でした。

アンケート結果では、インスリンポンプを導入している施設では、ポンプ治療中止理由に経済的負担が挙げられました。これから導入を検討している施設からは、指導などの手間や、指導できるスタッフの問題などが障害となり導入に至らないということが分かりました(検討していない施設からは返答なしでした)。

松本麻里先生からは、公立昭和病院でのTOP社ポンプ導入の経験を発表していただきました。閉塞圧設定が可能であるが、感度良好のためボース注入でもアラームが作動してしまい対応に苦慮した、など具体的な注意点などありました。このポンプは日本語表記のポンプであり、今後、導入増加が期待されています。

続いて、Sensor Augmented Pump (SAP) システムについての説明があり、実際に機器に触れてみることもできました。カラー表示・日本語表示であり画面の見やすさ、操作性は良好な印象です。コスト面の問題はありますが、質の良い血糖コントロールを目指すには最もよい方法と思われます。

次回、9月の研修会では、アンケート結果で希望の多かったSAPについて、実践編ということで研修を行う予定です。参加をお待ちしています。

研究会等の実施報告

第28回 武蔵野糖尿病医療連携の会

平成27年4月18日(土)
吉祥寺第一ホテル

『第28回武蔵野糖尿病医療連携の会』は、「肥満2型糖尿病」をテーマに4月18日(土)吉祥寺第一ホテルにて開催されました。

演題1は、「SGLT2阻害薬の使用経験」という演題で、東京都立多摩総合医療センターの辻野元祥先生より、実臨床における症例提示やSGLT2阻害薬を安全に使用するための留意点などをわかりやすくまとめてお話しいただきました。演題2は、「肥満合併糖尿病への栄養指導のコツ」という演題で、朝比奈クリニックの渡部一美先生より、管理栄養士の観点からの糖尿病患者への低糖質栄養相談の実際について、実際の症例の話題をふまえてお話しいただきました。演題3は、「保険診療による肥満手術の現状」という演題で、東京都立多摩総合医療センターの清水英治先生より、肥満症に対する外科治療について手術の実際や、効果とそのメカニズムについてお話しいただきました。

3つのご講演を通じて「チーム医療連携の重要性」を改めて確認できる会となりました。計61名の医師・コメディカルの方々にご出席をいただき、大盛況の中、無事閉会いたしました。

次回は2016年7月頃に開催予定で、現在日程調整中です。この研究会はありきたりのテキストブックでは飽き足りない皆様に、実践に即したすぐに役立つ情報をお届けすることを目的としております。次回も多数の医師及びコメディカルの先生のご参加をお待ちしております。



辻野先生



清水先生



渡部先生



答え

1, 4

下記の解説をよく読みましょう。(問題は1ページにあります。)

解説

白内障は、水晶体の中身のたんぱく質が変性して濁って起こる。糖尿病患者は高血糖により水晶体の代謝が阻害されるため、早期に、視力が低下し、霧視などが出現する。糖代謝異常により糖尿病白内障が発症する場合と、老人性白内障が早期に発症する場合がある。

予防には血糖コントロールが重要である。点眼による治療があるが、日常生活に不自由を感じたら手術が必要となる。超音波水晶体乳化吸引術、眼内レンズ挿入術などが行われる。種々のリスク、合併症や網膜症のある患者は入院で行う。

糖尿病白内障には糖尿病網膜症が隠れていることがある。定期的な眼科受診の指導が大切である。

当会の事業・委員会活動のご紹介 - 『(公立昭和病院)糖尿病連絡会』の活動 -



当会理事長 糖尿病連絡会代表
公立昭和病院
貴田岡 正史 [医師]

公立昭和病院とかかりつけ医を中心に構成された糖尿病の医療連携の会です。患者さんの紹介・逆紹介を推進するとともにお互いの糖尿病診療の質を向上させることを目的としています。

第1回は1994年5月に開催されました。症例検討とともに糖尿病診療におけるトピックスを中心に講演を組むなど、日常診療に密着した内容を企画しながら、医療連携の実をあげるべく、ともに歩むことをモットーに継続してきました。

東日本大震災の発生した2011年は東京電力の計画停電の実施もあり開催が危ぶまれましたが、緊急テーマとして現地入りしたメディカルスタッフによる「被災地の食事の現状と栄養問題」という講演を実施する形で継続ができました。本年7月23日には第37回が織本病院院長の高木由利先生と東大循環器内科の真鍋一郎先生を講師に迎えて開催されました。

基幹病院の糖尿病専門医とかかりつけ医が中心となって始まった会ですが、他のメディカルスタッフの参加も徐々に増えて糖尿病療養指導の研修の場としても機能しています。最近是在宅医療を念頭においた内容を企画することも多くなりました。この研究会に限られたことではありませんが、今後はお互いの世代交代を視野にいれながら医療環境の変化を踏まえて、介護職を含めた広い意味での医療連携活動の拡充が重要な課題です。

連載コラム

テーマ

「妊娠糖尿病について」～全3回～ 第2回

当会会員 東京都立多摩総合医療センター
櫻田 麻耶 [医師]

当院では2010年3月から2014年3月(約4年間)の全分娩4777件のうち、妊娠糖尿病は286例(6%)でした。産科で妊娠糖尿病と診断された場合、直接、内科に電話連絡をしていただき、できるだけ早く診察するようにしています。

しかし、健康に出産できて当たり前だと思っていたのに、ある日突然、妊娠糖尿病と診断されて、精神的に動揺する妊婦さんも少なくはありません。初診時のお話はできるだけ丁寧にしています。

血糖は、食前100mg/dl未満、食後2時間120mg/dl未満を目標とし、自費になりますが自己血糖測定を併用します。食事療法を行います。若い女性で、1日3食規則正しく、バランスのとれた食生活をしている方は、そう多くはありません。朝食なし、お菓子が食事代わりのこともあります。食事記録の夕食の欄に『ブラッ○サンダー(※菓チョコレート菓子)』と書いてきた方もいました…。

血糖管理が十分にできない場合は、インスリン注射をします。腹部に注射するのが怖い場合は、大腿部をお勧めします。妊娠が進むにつれ、インスリン使用量が増えますが、ほとんどの場合、産後に中止できます。

こうした妊婦さんの努力で様々な苦勞を乗り越え、無事に生まれた赤ちゃんとお会いできるのが、私たちにとって、とても喜ばしいことです。



事務局からのお知らせ



事務局へのお問い合わせは当会ホームページで常時受付けております。ご返信にはお時間をいただくことがございますが、順次対応させていただきます。お急ぎの方は平日の10:00~12:00 / 13:00~16:00にお電話くださいますようお願いいたします。

●年会費のご納入はお済でしょうか? 年会費は、当会ホームページ会員マイページにログインして、ご納入ください。ログイン方法が分からない方、インターネットの操作に慣れない方は事務局までご相談ください。

研究会等のセミナー・イベント情報

直接事業 間接事業 その他

◆大震災・災害と糖尿病患者 ～ネパール地震から学ぶこと～

申込必要

開催日: 平成27年9月6日(日) 14:00~16:00 (開場13:30)

場 所: 国分寺Lホール(国分寺駅ビル8階)

参加費: 無料

申込み: 同封のお申込み用紙にて、FAXか郵送でお申込みください。(締切: 8月31日(月))

FAX: 042-322-7478 (宛先: 当会事務局)

※詳細は同封の資料をご覧ください。

※本セミナーへのご参加は、先着順とさせていただきます。入場券(はがき)の発送をもって代えさせていただきます。

研究会等のセミナー・イベント情報

 直接事業
 間接事業
 その他

 西東京CSII普及啓発プロジェクト 第6回研修会

 申込必要

開催日：平成27年9月7日（月）19：25～21：05

場所：国分寺労政会館 第4会議室（JR「国分寺駅」南口徒歩5分）

参加費：無料

申込み：当会ホームページの申込みフォームよりお申込みください。（締切：8月31日（月））

★西東京糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位：4単位

※詳細は同封の資料をご覧ください。

 第16回（平成27年度）西東京糖尿病療養指導士養成講座

 申込必要

開催期間：平成27年9月4日（金）第1講開講 以降12月8日（火）まで計13回実施

時間：19：00～21：00（開場18：30）

会場：立川市女性総合センターアイム 1階ホール（JR「立川駅」北口徒歩7分）

講義内容：「糖尿病療養指導ガイドブック 2015」に沿っておこなう

受講料：14,000円

講義日程：9月 / 4日（金） 9日（水） 15日（火） 30日（水）

10月 / 7日（水） 14日（水） 20日（火） 26日（月）

11月 / 5日（木） 13日（金） 20日（金） 24日（火）

12月 / 8日（火）

予備日：12月3日（木）

※休講等、不測の事態に備えた補講日

定員：190名（定員に達し次第締切）

受講資格：糖尿病療養指導に1年以上携わった経験のある方（自己申告で可）で且つ、当会の正会員となる方（※詳細下記）

テキスト：日本糖尿病療養指導士認定機構 編

「糖尿病療養指導ガイドブック 2015」を使用します。

（日本糖尿病療養指導士認定機構発行、㈱メディカルレビュー社発売 3,024円）

※テキストは、当日までに各自ご用意ください。

書店にご注文頂くか、インターネット（Amazon, 楽天ブックスなど）で購入できます。

申込方法：8月4日（火）正午より当会ホームページ（<http://www.nishitokyo-dm.net/>）にて受付を開始いたします。詳細内容及び申込み方法はトップページ「**重要なお知らせ**」並びに「**新着情報**」よりご案内いたします。※今年度よりお申込みは全て、ホームページの「申込みフォーム」からとなります。

お申込み手続きのあと、Web決済サイトへ遷移いたしますので受講料のお支払いも合わせて行ってください。

お支払い方法は、「クレジット」か「コンビニエンスストア」をお選びいただけます。

【受講資格】当該講座の受講には、以下の4点を満たすことを必要とする。

1. 医療職であること。※但し、非医療職であっても、認定審査委員会の審査をもって受講を認めることがある。
2. 糖尿病療養指導に1年以上携わった経験があること。（非常勤でも可、自己申告）
3. 受講申込と共に、NPO法人西東京臨床糖尿病研究会の正会員となること。
4. 所定の期日までに、申込をし、受講料を納めること。

 第16回 糖尿病予防講演会

 申込不要

テーマ：正しい知識があなたの未来を明るく変える

開催日：平成27年9月26日（土）14：00～17：35

場所：ルミエール府中 コンベンションホール飛鳥（京王線「府中駅」北口徒歩6分）

参加費：無料（どなたでも参加出来ます。）

★西東京糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位：2単位

★日本糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位＜第2群＞：1単位申請中

※詳細は同封の資料をご覧ください。

発行元

NPO法人 西東京臨床糖尿病研究会 事務局

〒185-0012

国分寺市本町2-23-5 ラフィネ山No. 3-802

TEL:042(322)7468 FAX:042(322)7478

<http://www.nishitokyo-dm.net>

Email:w_tokyo_dm_net@crest.ocn.ne.jp

編集後記



最近の栄養相談でよく話題になるのはスイカです。夏の風物詩の一つですが、患者さんからは、「スイカなんて水分だけかと思っていた」という声もよく聞かれます。確かに水分補給にもなり、カリウムやビタミンA、C、リコピンなどが含まれ、栄養も豊富ですが、しっかり糖分も含まれます（100g中の糖質量約9g）。好きな方はつい食べ過ぎてしまう場合が多いようですので、摂り過ぎに注意し上手に取り入れたいですね。（広報委員 永田 美和）